

第7回横濱まちづくりラボでは、「“知と創造”をテーマとしたまちづくり」シリーズの第2回として、参加者有志によるショートプレゼンとグループワークをつうじて、様々なアイデアを幅広く生み出すことを目的として開催しました。



### 開催概要

開催日時：平成27年2月12日（木） 13:30~16:00

開催場所：明治安田生命ラジオ日本ビル3階会議室

議題：“知と創造”をテーマとしたまちづくり シリーズ第2回

参加者数：61名（設計・建設・不動産業、地元協議会、金融業、大学等教育関係者、スポーツ関係、医療・福祉関係、IT産業、コンサルティングサービスなど）

### 参加者によるショートプレゼン

参加者8名の方に御協力いただき、それぞれが考えられているアイデアをプレゼンテーションしていただきました。

## 1 MICE・IRの バックヤードとしての 役割機能作り

牛山 裕子 氏

（関内・関外・港町地区都市計画協議会）

横浜市のMICE・IRのバックヤード機能として、

- 食住の提供
- 寛げる場の提供
- 人材供給のための教育機関設置
- スポーツ等の得意分野を共に楽しむ団体設立
- 交通機関の集積地

以上のような役割を持つまちづくりを提案します。

- スポーツウェルネス=トップアスリートの活用
- 世界のエリート選手が訓練する為の聖地であり、人間のパフォーマンスを推進する応用研究と技術革新の先進開発地域（世界最先端のイノベーションシステム）
- 世界のトップアスリートに最高のサポート（ノウハウの証明）  
→ 応用研究と技術革新（ノウハウの開発）  
→ 市民に還元（ノウハウの活用）
- 応用研究と技術革新（教育と文化の発展）  
→ 世界のトップアスリートに最高のサポート（エンターテイメント）  
→ 市民に還元（経済効果、セカンドキャリア対策）

## 2 スポーツウェルネスによる 知と創造の イノベーションシティ化構想

岡本 尚博 氏

（横浜ビー・コルセアズ エグゼクティブアドバイザー）

／（社）地域活性化事業法人 副理事長）

高齢者・障害者を含む誰もが支障ない建物・空間をつくり、「当事者だからできること」を考える人が集い、体験から気づき、支えるという行動に移す福祉のまちづくりを考える。

- 高齢者・障がい者・当事者が参加する社会
- 認知症の人、当事者を支える社会との融合

## 3 協存 ～社会での アクセシビリティの向上～

河原 智之 氏

（NPO法人みんなの미래いサポート 代表理事）

イノベーションを起こしたいと考える企業はマーケティングの仕方を変え、生活者視点の課題の発見から新しいビジネスを生み出そうとしている。

「楽しい学び=あそび」から新たな“くらしのあり方”を生み出すまちへ。

○よこはま『あそび場』プロジェクト

くらしの中のさまざまな課題の閉塞感と思考停止から抜け出すための学びを、あくまで“たのしく”実践する=『あそび場』をつくる。

## 4 「たのしい学び=あそび」から 新たな“くらしのあり方”を 発信するまちへ

齋藤 美和子 氏（処デザイン学舎 代表）

## 5 少子高齢化・人口減少などの社会課題を解決するまちづくり

近澤 弘明氏

(株式会社近澤レース店 代表取締役)

- スポーツと医療を合体させた市民一人ひとりに合ったプログラムを提供できる施設（医療の裏付けを持ったジムなど）
- 慶応大学スポーツ医学センターの協力
- 様々なスポーツをプロと一緒に楽しめる場の提供（ベイスターズ、ビーコルセアーズ、マリノス等との連携）
- 企業の健康に関する製品を紹介する場の提供（企業との連携）
- 外国人を受け入れる最先端の人間ドッグ
- 趣味（スポーツを含む）を楽しめる老人ホーム（老人ホームとシェアハウスの合体）
- 新しい人材、起業を助ける場づくり
- 実施にあたる組織づくり＝エリアマネジメント

横浜は、明治初頭よりもの・文化の集積地で植物もここから世界へ発信されました。もう一度この横浜を世界に発信のできる、屋外はもちろん室内も花で彩り、華のある街をつくりましょう。

- 室外・室内を花いっぱいの空間にしましょう（移動可能な花の展示）
- 育種・生産型の公園、及び施設を作りましょう
- 多目的施設として利用しましょう（例えば、花の中で食事、音楽会、国際会議、展示会、ミーティング、セミナー、結婚式等しましょう）

## 6 横浜を花で彩のある華のあるまちに！

松浦 孝裕氏

(加茂株式会社 事業開発部長)

## 7 横浜市と国連欧州本部を繋ぐ青少年のグローバルリーダーシップ教育（世界平和と地球環境保護）

松崎 修明氏

(2015年国連創立70周年記念事業統括)

横浜市と国連本部をつなぐ青少年グローバルリーダーシップ教育を提案します。

- 2015年10月28日 在ジュネーブ国連欧州本部にて第5回式典開催：青少年国際交流とleader教育
- 15歳～24歳ミツシヨンの役割：参加各国首脳のショートメッセージ&小石（意志）を入手し、UN式典での代読
- 国際機関（IUCN/IOC/UN/WHO/UNESCO）での研修

開港とともに発展し先駆的な人材を育ててきた横浜で、新たな時代の人材育成拠点を構築する。「国際商都」として、都市型サービス産業やそれらの活動を支援する市民活動団体を集積し都心部の活性化を推進するまちづくりを提案します。

- 観光ホスピタリティ産業、国際交流に貢献する人材の育成観光マネジメント学科設立
- まちづくり団体との連携協働によるまちなかキャンパス公開講座企画・運営

## 8 次代を担う人材の育成拠点を中核に、都市型サービス産業やそれを支える市民活動団体の集積を促進して「国際商都」の活性化を推進するまちづくりの展開

佐々 徹氏（横浜商科大学）

### グループワークによるブレインストーミング

A～Iの9グループに分かれ、ショートプレゼンの内容もヒントにしなが、グループワーク形式でのブレインストーミングを通じて、各参加者の自由な発想によるまちづくりのアイデアを幅広く出しました！

次回の横浜まちづくりラボでは、これらのアイデアをもとに、コンセプトと具体的な機能イメージづくりを進めていきます。

### 参加者の感想

- 縛りのない自由な意見交換の場で有意義だった。
- アイデアのレベルにばらつきがあり、軸をいくつか決めて収束させていくべき。
- 発言しやすい場作りをしていただいた。
- まちづくりの実践的な場となっていた。それぞれのショートプレゼンをもう少しじっくり聞きたかった。
- アイデアと思いのある方々を目の前にして、関内活性化に希望を感じた。